

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	本杉 宏志	日本史A（山川出版社）
必修 学校必修 ○必修選択 自由選択		資料日本史（東京法令出版） 新詳日本史（浜島書店） 日本史総合テスト（山川出版社）

◆学習の目標

軍部の台頭から学習を進めながら、我が国が歩んできた歴史を国際的視野に立って理解させ、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。

◆主な学習内容・方法

＜内容＞
 軍部の台頭 第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
 冷戦の終結と日本社会の動揺

＜方法＞
 教科書を中心教材として、資（史）料の分析及び読解に基づく考察を交え、主として講義形式で学習する。

◆到達目標と評価の観点

- 〔標準〕
- ・昭和初期～現代の歴史的諸事象の内容を正確に理解し、時計列上での的確に把握する。
 - ・事象の内容や事象間の因果関係を的確・簡潔に表現する。
- 〔応用〕
- ・さまざまに存在している膨大な情報を取捨選択し、それらを総合して歴史像を構築し適切に表現できる力を養い、難関国立大学2次試験に対応可能な学力を身に付ける。
- 〔評価の観点〕
- ・「知識・理解」「資（史）料活用力・的確で簡潔な表現力」「思考力・判断力」を評価する。

◆評価の方法

- ・定期試験（論述問題・正誤問題を必ず出題）を中心にして、通常の授業への取り組み姿勢を加味し総合的に評価する。

◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1学期（26時間）	2学期（28時間）	3学期（16時間）
------	------	-----------	-----------	-----------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・予習の段階では、教科書を通読し、歴史の流れの大筋をつかんでおく。復習では、授業の内容を整理し、ノートを完成させる。
- ・単元の終了時、考査前には、問題練習を行い、理解度を把握する。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	軍部の台頭	13	満州事変 政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退 恐慌からの脱出 転向の時代 二・二六事件	<ul style="list-style-type: none">・満州事変がその後の国内政治・外交にもたらした影響・意義について考察し、簡潔に表現できる。・日本経済はどのようにして昭和恐慌から脱出し、その過程でどのような問題が生じたかを考察し、簡潔に表現できる。・日中戦争勃発の前後に経済統制が本格化した理由、又その実態を考察し、簡潔に表現できる。・日中戦争の長期化に伴い日米関係が悪化した理由、及び大東亜共栄圏の理念と実態について考察し、簡潔に表現できる。
	5	第二次世界大戦	13	三国防共協定 日中戦争 戦時統制と生活 第二次世界大戦の勃発 新体制と三国同盟 太平洋戦争の始まり 戦局の展開 国民生活の崩壊 敗戦	
	6				
	7				
2 学期	8	占領と改革	6	戦後世界秩序の形成 初期の占領政策 民主化政策 政党政治の復活 日本国憲法の制定 生活の混乱と大衆運動の高揚	<ul style="list-style-type: none">・初期占領政策によって経済構造はどのように変革されたかを考察し、簡潔に表現できる。・日本が独立を果たした国際的要因及びその後の日米安保体制のあり様を考察し、簡潔に表現できる。・朝鮮戦争の勃発・休戦は、国内政治・経済・国際的地位にどのような影響を及ぼしたかを考察し、簡潔に表現できる。・1950年代半ばに高度経済成長が始まった要因、1930年代の成長との対比、国民生活の変化などについて考察し、簡潔に表現できる。・冷戦終結後の世界情勢、国内情勢及び諸課題について考察し、簡潔に表現できる。
	9	冷戦の開始と講和 55年体制	4	冷戦体制の形成と東アジア 占領政策の転換 朝鮮戦争と日本 講和と安保条約	
	10	経済復興から高度成長へ	6	冷戦構造の世界 独立回復後の国内再編 55年体制の成立 安保条約の改定 保守政権の安定	
			6	朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 大衆消費社会の誕生 高度成長のひずみ	
	11	激動する世界と日本	4	ドル危機と石油危機 高度経済成長の終焉 経済大国の実現 バブル経済と市民生活	
	12	冷戦の終結と日本社会の動揺	2	冷戦から内戦へ 55年体制の崩壊 平成不況下の日本経済 日本社会の混迷と諸課題	
3 学期	1	入試問題演習	16	過去問演習	<ul style="list-style-type: none">・大学入試に備え、過去の入試問題の演習を通して、知識の整理と簡潔で論理的に論述する力を一層高める。
	2				
	3				